

第7回 防災委員会

五箇山合掌集落の防災研修

[1] 目 的

この南砺地域の世界文化遺産である「五箇山合掌集落」に赴き、文化財の保護のためにどのような工夫と努力がなされているのかを見学することによって、文化財への興味・関心を深め、地域の防災に携わる方にお話をいただくことにより、文化財保護の意識を高めていきたい。

[2] 日 程（集中セミナー「郷土文化講座」に参加）

	8:10 9:00 9:15 9:30			12:00 13:30			18:00 19:00		20:00
8月10日(木)	学 校 発	受 付	開 校 式	民謡体験 講座 (歌・踊り・楽器)	昼 食	○文化・史跡 巡り ○文化財の防 災研修	夕 食	講義 五箇山の伝統 文化と歴史	
	7:00			8:30 9:00	11:00 11:20 12:00				
8月11日(金)	朝食 清掃		移 動	民謡体験 講座	閉 校 式	学 校 着			

※8月10日（木）の午後の防災研修は、合掌集落保存財団(0763-66-2123)の水上氏

[3] 受講料 1,500円（3,500円の内2,000円補助）食費シート代等

[4] 携行品 1日目の昼食、筆記用具

[5] 申し込み 平成18年6月30（金）まで



五 箇 山 見 学 記 録

(生徒の意見)

NO.

氏名

[1] 民謡体験講座に参加して

- ・ ささらは、手も足も動かさなければならぬので、手を挟んで痛かったが、踊りは楽しかった。
- ・ こきりこ踊りは初めての体験で、見た目以上に難しかったが、楽しかった。
- ・ 間近で見ていると簡単そうに見えたのに、実際やってみると難しかった。
- ・ 触れたことのない楽器を使えて楽しかった。
- ・ とても貴重な体験ができた。
- ・ 平高校のこきりこを見てすごく感動しました。間近で見られて、どんなときにどんな音が出るのかははっきりわかってよかった。

[2] 文化財の防災について

(1) どのような工夫がなされていたか。(どのような防災システムであったか)

- ・ 貯水池は文化財の外観を壊さないため地下にあるが、豪雪地帯のため放水銃は外に縦長のケースに入れられて、高い位置に設置されている。
- ・ 屋根雪と地面に積もった雪との隙間を必ず開ける。
(くつつくと屋根雪が落ちず潰れる)
- ・ 放水銃は消火だけでなく、水の膜を作り、火の粉を払って延焼を防ぐこともできる。
- ・ 放水銃が34個設置されていて、家を水が囲むように配置されている。
- ・ 雪の重みに耐えられるように、わざと湾曲した木を梁(はり)(天井の柱)に使っている。
- ・ 家の柱に鎖があって、傷をつけずに解体や交換、移動できる構造になっている。
- ・ 大黒柱がない。
- ・ 屋根に雪がたまらないように、勾配が急になっている。
- ・ 地下に車庫がある。

(2) 巖浄閣に利用できることは何か。

- ・ 非常時に備えて、巖浄閣の放水銃の試し放水をしておく。
- ・ 重要文化財を受け継いできたという思い。守り続けようとする心。

(3) 日常生活に応用できることは何か。

- ・ 放水銃、消火栓、消火器の三重の備えをしておく。
- ・ 非常時に地域の人に助けられるよう、近所の人たちとのコミュニケーションや団結力が必要である。
- ・ 屋根雪対策(隙間を開ける)

（４）生徒の感想（一部抜粋）

- ・合掌造りでは、広範囲に水をまける放水銃や、大黒柱がなく、家を自由に組み替えられたり、曲がった木をを利用して家を支えていると言う昔の人の知恵に驚きました。
- ・五箇山の集落はライトアップされてすごく大切にされているのを感じた。巖浄閣も福野高校だけでなく全国的に大切にされているのだから、私たちの手で守っていくべきだ。民謡体験は見ていると簡単そうだが実際に体験してみるとすごく難しかった。
- ・合掌集落では、「放水銃」、「地下の車庫」、「曲がった木を梁に利用して家を頑丈にする」等自然の力を有効に利用した知恵や努力はすごいと思った。
- ・放水銃体験は大人の方が見本を見せていても失敗していたので、とても緊張したが、なかなかできない体験なので挑戦して良かった。
- ・放水銃は意外に使い方が難しかったので、巖浄閣のものも一度試しに放水訓練してみた方がよいと思った。
- ・火事になったら火元を直接消す消火栓と、水の膜を作り被害の拡大を防ぐ放水銃、そして、屋根雪と地面の雪の間は開けておかなければならないことや天井の梁には曲がった木を使用することによって、屋根は丈夫に支えられていること等自然がうまく利用されていて感心しました。。